11 河井寛次郎

《紫紅双耳壺》 一点

昭和三年（一九二八）
陶磁
高四二・八　径三五・〇

河井寛次郎（一八九〇～一九六六）は東京高等工業学校で窯業技術を学び、大正三年（一九一四）より京都市立陶磁器試験場に技師として赴任、古今東西の陶磁や様々な釉薬の研究をおこなった。同六年、試験場を退職して五代清水六兵衛の釉薬顧問となり、その後、同九年に清水六兵衛の窯を譲り受け鐘渓窯と名付けて独立した。大正十年代にかけて、豊富な釉薬の知識に基づき中国・朝鮮古陶磁の技法に挑んだ作品を発表し、評論家や愛陶家から絶賛を受けた。しかし、同十三年の柳宗悦との出会いを通じて無名の陶工よって生み出された日用雑器の美に目覚め、新たな作風を模索することとなる。

本作品は、昭和三年の大礼に際して昭和天皇より香淳皇后へ贈られた作品で、河井が柳らと民芸運動を積極的に展開するようになった時期に製作された。同年は三月に上野公園で開催された御大礼記念国産振興東京博覧会に「民藝館」を建設し、そこに展示する民芸品を収集するため前年から日本各地を巡るなど多忙な時期であった。本作品では技巧を抑えた簡素な器形に、中国の宋から元時代にかけて隆盛をみた鈞窯の澱青釉紫紅斑の釉薬表現を再現している。白濁した水色の釉薬の上に藍色から赤紫へと変化する釉薬が自然に流れ、胴の周囲に二つの色彩が細かな筋状に入り交じった複雑な釉調をみせている。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

大礼 ― 慶祝のかたち
三の丸尚蔵館展覧会図録No.85

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　黒川廣子
発行　公益財団法人　菊葉文化協会
令和元年九月二十一日発行
©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan